

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表日		2021年3月31日	事業所名			ひばりキッズジュニア嘉麻ひまわり
チェック項目		はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			事業所玄関に至るまでスロープや車いす用のトイレの設置がなされている。室内はバリアフリーであるが、入口には段差があり狭く、砂利で危険であると感じる。今後、段差に色を付ける等して、視力が弱い児童にもわかりやすくなる工夫をしていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○		全職員で徹底できていないことがあるため、周知徹底していけるよう改善していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○	アンケートは実施しているが、改善まで至っていないことがある。サービス外の要望（送迎時間が営業時間外）に出来る限り行っている。どうしてもできない場合は保護者へ説明を行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			第三者の外部評価はしているが、評価を聞いたことがない。今後、職員全体で評価の結果などの共有を行っていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に様々な社内研修を行い、皆で考えていくようにしている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		各種アセスメントを実施し、課題点を把握し、その後の支援に繋げていくよう計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	現在のアセスメントシートでは難しい児童もいる。現在、評価することが難しい児童へのアセスメントシートを使用し、試している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		今までは特定の職員に偏っていたため、現在クラスで話し合い、プログラム作成できるよう進めている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		各児童の特性等を理解し、それぞれの児童に合わせたプログラムを提供できるようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			課題を決めているが、細やかには設定できていると言えない。今後工夫していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団活動が難しい児童等は個別のプログラムを設定し、取り組んでいる	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			現在もj実施しているが、伝達漏れ等がないよう工夫していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	支援開始前、職員がそろった時点で、引き継ぎや確認を行うようにしている。支援後は送迎等で職員が揃う事が少ないため、全体で振り返りを行う事は難しい。打ち合わせを行っているが伝達漏れが多い。今後、スケジュール化をし、伝達漏れがないよう全員で共有できるよう工夫していく。	支援開始前、職員がそろった時点で、引き継ぎや確認を行うようにしている。支援後は送迎等で職員が揃う事が少ないため、全体で振り返りを行う事は難しい。打ち合わせを行っているが伝達漏れが多い。今後、スケジュール化をし、伝達漏れがないよう全員で共有できるよう工夫していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○	個々に週案に児童の様子を記録している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		それぞれの目標等に応じた自立課題や創作活動、運動遊び等を組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している。		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
関係機 関や保 護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			事前に職員間で状況把握を行い、担当者もしくは児童発達支援管理責任者等が出席している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			連絡を行ったり、保護者からも事業所に伝えて頂く様依頼するなど、連絡を密に取るよう、工夫している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			鼻注を実施している児童がいるが、主治医との連絡体制を行う必要がないため行っていない。今後確認を行う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			児童発達支援事業所と行う事はあるが、認定こども園や保育園、幼稚園とは現在行っていない。今後は必要に応じ、実施していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			卒業児童がいる際には実施している。今後も同じような場合には実施していく予定である。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			現在は行っていないが、今後検討していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		保護者の要望で交流して欲しくないとの意見もあるため、行っていない。今後、保護者へ外部との交流の意味等を理解してもらえるような働きかけや施設行事等を近隣の小学校に呼びかける等の工夫をしていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している			○		今後は積極的に参加していけるよう、情報を収集していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				送迎時等に家庭や学校での様子を尋ねたり、事業所で取り組んでいることを伝え、家庭でも生かしてもらえるよう働きかけを行っている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				保護者に助言等を行っているが、振り返りまでが出来ていない事が多い。今後は振り返り、経過を確認するとともに、職員全員で共有していけるよう工夫する。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				実施しているが、携わった職員しか知らない事もあるため、今後、職員全体に、どの様な説明を行っているのかを勉強会等を行い、周知していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				助言を行っているが、振り返りまでが出来ていない場合もあるため、今後は必ず保護者に助言後のフォロー（振り返り）まで行うよう徹底していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		今後、どの様な形で保護者会等を実施していくかを職員全体で検討・工夫していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○			会報の発行等は行っていないが、月間の活動案等を発行している。保護者の方からも活動の様子を知りたいとの意見があるため、今後会報の発行等を検討していく。
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○				今後、施設行事の参加などを近隣の方や地域の学校等に呼びかけていけるよう工夫していく。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者	○				
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			児童と一緒に避難訓練等を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			年に一度は虐待防止研修等を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○			現在身体拘束が必要な児童はいないが、今後は利用開始時等に児童の特性を尋ね、ご本人の安全の為に必要と感じた場合には実施する可能性を事前に伝えておく。また、やむを得ない状況で実施した場合には保護者に速やかに報告を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している			○		現在も行っているが、今後はより小さなことでも報告・改善していけるような仕組み作りを検討していく。